

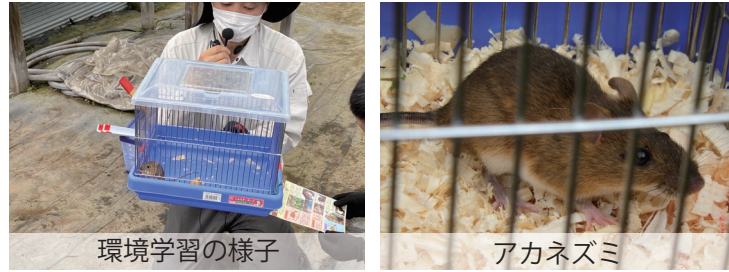
今後の森林再生の進め方についての検討

林冠層*をカラマツから広葉樹へ交代させる手法について、事業地周辺のカラマツ林や文献の調査、専門家への意見の聞き取りを行い検討します。

*林冠層：森林の頂部で枝葉の茂った部分

環境学習 以下のプログラムを実施しました。

- ◆釧路市生涯学習センターと共催したイベント
実施日：令和4年9月17日 参加者数：14名
小学生対象：野ネズミや水生生物の調査体験
アカネズミ・エゾヤチネズミ、ヤマメ・ハナカジカ・スナヤツメなどを捕獲して観察しました。



小委員会では、このような意見交換が行われました

- Lの沢、Cの沢の上流でウチダザリガニが捕獲されなかったのは、天然堰が侵入の障壁となっている可能性があるという話でした。天然堰の高さはどれくらいなのでしょう。
● 30cm程度だと聞いています。天然堰を登る可能性はありますが、今回の調査では確認できませんでした。

QRコードと「釧路湿原自然再生協議会 森林再生小委員会」の連絡先情報

市民参加のイベントを実施しています

● 釧路湿原 森林ふれあい推進センター
● 再生普及行動計画オフィス「ワンダグリンド・プロジェクト」

第22回森林再生小委員会 [出席者名簿 (敬称略、五十音順)]

- 個人 [3名]
神田 房行 [北方環境研究所所長 (元北海道教育大学副学長)]
清水 信彦
中村 太士 [北海道大学大学院 農学研究院 教授]
関係行政機関 [4機関/4名]
国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [治水課長 市川 嘉輝]
環境省 釧路自然環境事務所 [国立公園企画官 柳川 智巳]
林野庁 北海道森林管理局 [根釧西部森林管理署 署長 梶岡 雅人]
釧路市 [市民環境部 環境保全課 課長補佐 元岡 直子]

資料の公開方法
ご意見募集
釧路湿原自然再生協議会 運営事務局
TEL (0154) 23-1353
FAX (0154) 24-6839

令和4年10月18日(火)「第22回 森林再生小委員会」が釧路地方合同庁舎5階 共用第1会議室で開催されました。
開催概要
雷別地区自然再生事業地を視察後、小委員会が開催されました。小委員会には、11名(個人3名、4団体4名、関係行政機関4機関4名)が出席しました。(一般の方の傍聴はYouTubeでの配信といたしました。)
今回は、「雷別地区自然再生事業の実施状況」および「達古武地域自然再生事業の実施状況」について事務局より報告があり、それぞれに対する意見交換が行われました。

森林再生小委員会とは
森林再生小委員会は、釧路湿原自然再生協議会の7つある小委員会のひとつです。毎年ほぼ1回の会議を開催し、釧路湿原流域における森林の再生に関わる以下のような施策について検討をしています。
・湿原への土砂の流入を軽減し、水環境を保全するために、流域内の森林を再生する施策
・湿原や河川ともつながりを持つ、地域本来の豊かな森林生態系を再生する施策
【構成員】52名(個人20名、20団体、オブザーバー4団体、関係行政機関8機関) (令和4年10月末現在)

森林再生の取り組み
現在、雷別地区(標茶町)と達古武地区(釧路町)で、地域本来の自然林を再生する取り組みを行っています。
取り組みの基本的な方針は、自然が持つ回復力にゆだねて再生を見守ることです。しかし、状況に応じて人の手を加える必要があるため、モニタリングを実施した結果などから森林再生の手法を検討し、実施していきます。
雷別地区(標茶町)
雷別地区国有林(293林班)はシラルトロ沼の上流域に位置しています。平成12年に気象害で人工林のトドマツが枯れてしまい、水土保持機能が低くなってしまいました。
そこで、この跡地において、シラルトロ沼上流部の森林の水土保持機能を高め、シラルトロ沼や上流河川、湿原を保全することを目的に、郷土樹種である広葉樹主体の森林を再生する取り組みを行っています。
達古武地区(釧路町)
達古武地区は釧路湿原東部に位置しています。達古武湖を中心に、湿原や河川、丘陵林の生態系が小さくまとまり、釧路湿原の生態系の縮小版とも言えます。その中のカラマツ人工林において、人工林を地域本来の落葉広葉樹林へ再生する取り組みを行っています。

1 自然再生事業地視察：雷別地区 林野庁釧路湿原森林ふれあい推進センターが取り組みました

林野庁釧路湿原森林ふれあい推進センターの案内により、笹地10、11、13(雷別地区国有林293林班)を視察しました。ここは、平成12年に人工林のトドマツが気象害で大量に枯れて笹地となった箇所です。当日は、保護管(ツリーシェルター)※の設置により順調に生育している植栽木等の状況について視察を行いました。
※保護管(ツリーシェルター)：樹木を覆うプラスチック製の筒。エゾキウサギやエゾシカの食害から植栽木を守るために装着します。
自然再生事業地視察の様子

自然再生事業地視察【笹地13 D51区画】では、このような意見交換が行われました

- ここは植えてから何年経っているのでしょうか。 ▶ ● 13年です。平成21年に植えています。
 - 今までに保護管を外した植栽木は無いのでしょうか。 ▶ ● 2本あります。これらはエゾシカの食害を受けていません。
 - 植栽木の高さ的には問題ないため、保護管を積極的に外してはどうでしょうか。何らかの形で外す基準を作り、それが適切かどうかモニタリングして、エゾシカによる被害に遭ったかどうかなど、そういう情報を積み上げていけば、いつ保護管を外したら良いか決まるのではないのでしょうか。 ▶ ● 委員長のお話を参考に早めに保護管を外すことを検討していきたいと考えています。また、撤去したプラスチック製保護管の処理も含めて、環境に配慮しながら森林づくりを進めていきたいと考えています。
- 委員長 ● 事務局

2 雷別地区自然再生事業について 林野庁釧路湿原森林ふれあい推進センターが取り組みました

◆ 令和4年度の取り組み

1. ササの刈払い

これまで植栽前のササの刈払いは人力で行っていました。今年度はそれに加えてリモコン式草刈り機による刈払いを実施しました。刈払いのほかにも、地拵えなどの他の作業にも利用でき、省力化が期待できます。



リモコン式草刈り機による地拵えの様子

2. 広葉樹の植栽と食害への対策

- ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ、カツラの4種類の樹木を、合計で300本植栽しました。
- エゾユキウサギ、エゾシカ等の野生生物の食害から保護するため、植栽木を保護管(ツリーシェルター)※で覆いました。
- 植栽と食害対策は、森林ボランティアや企業のCSR活動と協働で行っています。

※保護管(ツリーシェルター)：樹木を覆うプラスチック製の筒。エゾユキウサギやエゾシカの食害から植栽木を守るために装着します。



保護管装着の様子 企業のCSR活動



若者の植樹イベントの様子

3. 植栽木の生育状況

- 平成21年に植樹した100本の植栽木の内、保護管で覆った50本について今年度も樹高の調査を行いました。
- 保護管の撤去が必要な場合は調査後に撤去しています。今年度は対象となる樹木が6本ありました。
- 植栽した樹木は順調に生育しており、今後も成長が期待できます。

◆ 令和5年度の事業予定等

事業予定

- 広葉樹を植栽するため、ササの刈払いを人力とリモコン式草刈り機により継続して行う予定です。
- 植栽時には保護管を装着する予定です。

今後の検討課題

- 保護管を撤去した後のエゾシカによる食害など、樹木の状況を観察していきます。
- 保護管がどれくらいで使用できなくなるか調査していきます。
- 保護管のリサイクルについて検討していきます。

小委員会では、このような意見交換が行われました

- 育苗期間がわからなければ正確な樹齢がわからないと思いますが、現在植樹している樹木の育苗期間はどれくらいですか。 ▶ ● 育苗期間を確認して報告します。
- 委員 ● 事務局

「雷別地区自然再生事業実施計画」の特徴(平成19年9月)

- 広葉樹の森林へ再生するため、様々なことを試してきました。
 - タネを落とす樹木が多くある箇所は、自然の力に任せる
 - タネを落とす樹木が少ない箇所は、広葉樹の植栽を検討・導入する
 - ササが多く自然の力が至らない箇所はササを除去したうえで、広葉樹の植栽を検討・導入する
 - 植栽木がエゾユキウサギやエゾシカ等に食べられないよう、保護管(ツリーシェルター)や防鹿柵で守る



くわしくはこちら

「雷別地区自然再生事業実施計画」

3 達古武地域自然再生事業について

環境省釧路自然環境事務所が取り組みました

◆ 令和4年度の取り組み

再生工事等

以下の工事等を実施しました。

- 植栽(1.87ha約6,700本)
- ササ刈り(春：地拵え1.33ha、夏：下刈り10.43ha)
- 地域産種苗の育苗(定植～管理～仮植)
- 防鹿柵の巡視・補修

調査等

以下の調査等を実施しました。

- 植栽木の成長状況
- エゾシカによる影響把握
- 周辺カラマツ林の林分構造
- 達古武川上流部調査

調査結果

調査結果の内容は以下のとおりでした。

1. 防鹿柵内における植栽木の成長過程の追跡調査

- 植栽10年目で8～9割の樹木が樹高2mを超えました。
- 樹高成長は平均で20cm前後でしたが、過去と比較すると成長度合いは鈍化の傾向にあります。

【今後の方針】

- 植栽木の成長度合いを見ながら、防鹿柵の取り外し試験の実施を検討していきます。
- 植栽木が成長するにつれて、カラマツがどう影響するか注視していきます。

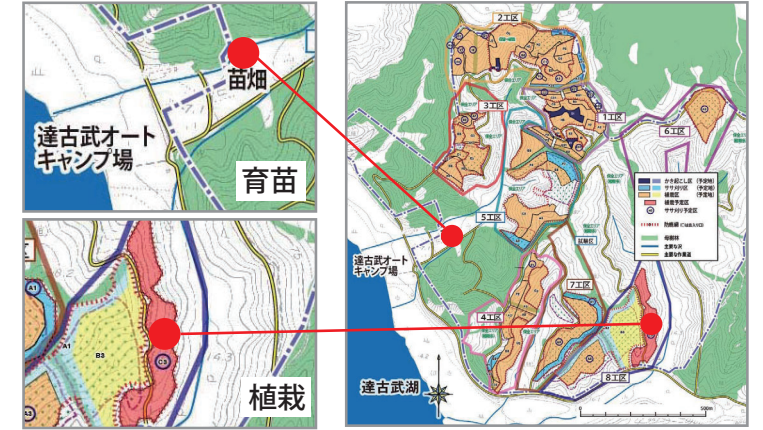
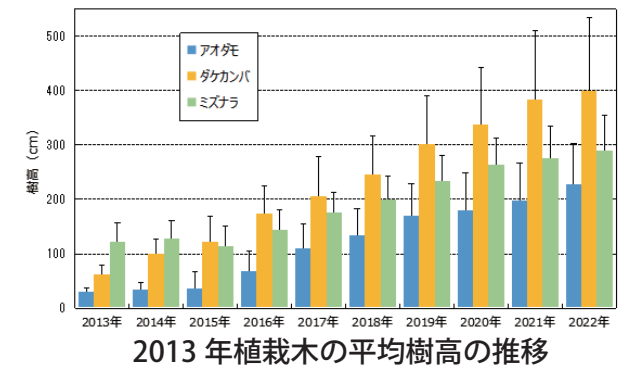


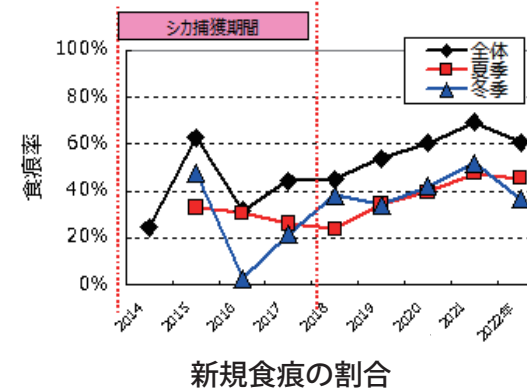
図 達古武地域再生工事箇所



2. エゾシカによる稚樹被食状況調査

- 新たな食痕は全体の61%で確認されました。昨年よりはその割合は低下しましたが、高い状態が続いています。
- 食害の影響により、樹高は平均で0.3cmほどしか成長しておらず、成長できない個体が増えています。

【今後の方針】 対策を検討していきます。



3. 達古武川上流部のザリガニ類調査

- Lの沢、Cの沢の合流部でウチダザリガニを20個体捕獲しましたが、昨年より密度は減少していました。
- Lの沢、Cの沢の上流ではウチダザリガニは捕獲されませんでした。天然堰が侵入の障壁となっている可能性があります。



確認されたウチダザリガニ

「達古武地域自然再生事業実施計画」の特徴(平成18年2月(令和3年3月付録の追記))

- 残っている良好な自然の保全を優先し、自然の回復力にゆだねた自然林の再生を目指しています。
- 継続的にモニタリングを行い、再生のために人の手助けが必要と判断された場合、以下のことを検討・実施しています。
 - 発芽、稚樹の成長を促進するため、必要な場所では地拵えを行ったり、ササを取り除く
 - 周辺の森林で採れた種子を育てて苗木をつくり、その苗木を植える
 - 稚樹がエゾシカに食べられないように柵をつくる
 - 広葉樹が大きくなったら、順次カラマツを伐採し、樹種の交代を促す



くわしくはこちら

「達古武地域自然再生事業実施計画」